海住山寺：2体の十一面観音立像

海住山寺の本堂の御本尊は、観音様の仏像が祀られています。観音様は、慈悲の神様として知られています。重要文化財にも指定されている、この「十一面観音立像」は平安時代（794〜1185年）の作品です。

また、奥の院にも重要文化財に指定されている「十一面観音立像」が祀られており、こちらも平安時代（794〜1185年）の作品です。像高は45.5センチメートルで、一木造りで制作されています。特徴ある丸みのある造形は、作られた時代よりも前の時代の彫刻様式を連想させます。正面から見ると、腰を左に捻り、右膝を少し曲げています。

側面から見ると、上半身を反らしていて、右手は肘から先を前に出しています。これらの動きで、観音像は腰を中心に、右手と右足を前に出す動作を見ることができます。これらを見てくると、本像の造形的な目標は、一木の中でいかに動きを表現するかということが目標であったと思われます。普段は、奈良国立博物館に寄託されています。